右者乍レ恐御迎に罷越、上げ申候。以上。

五月二日　金澤くわしや　吉　藏　判

進　上

一、まんぢう　せいろう一くみ

乍レ憚持參仕上申候。以上。

十月七日　金澤菓子屋　吉　藏　判

右献上目録にても、そのかみ生菓子を商賣せし事知られけり。せいろうは生菓子を入るゝ器物也。今も生菓子蒸籠一組などいへり。或は云ふ。生菓子といへるものは金澤の名目にて、もと此の家に初めて製出す。故に家號をも古來菓子屋と呼べり。されば金澤市中にて生菓子の本家也。生菓子は實に金澤町の名産なるを以て、今に至り郡方の者共、尾山の生菓子と稱美して、是を第一に買求め、土産として必ず携へ戻れり。是金澤の名産なる故也といへり。生菓子の名は、干菓子に對したる名目なり。菓子は木の實をいへる、是菓子の本稱なるを、後に糯米を製して、木の實なる菓子に擬造し菓子と稱す。蓋し其の製造に依りて干菓子・蒸菓子・生菓子と呼べり。千家等古き茶席献立書に、菓子梨・枇杷或はかいもちひなどありて、粥餅或は團子などをば皆菓子といへり。今時の蒸菓子などは、稍〻後世の製にて、輓近に仕初めたりといへり。

○菓子師傳話

拾纂名言記に云ふ。利常卿小松に居給ふ頃、葭嶋に美濃八谷柹を植ゑさせられ、美濃よりつるし柹仕者召寄せられ、甘干つるし柹被二仰付一。或時此柹の皮捨つるかと尋ね給ふ。定めて左樣にも御座候哉と申上る。急ぎ其柹の皮御前へ上るやうにと被二仰出一、奇麗に仕上る處、御菓子師才次に被二仰付一、此皮干して粉に仕、米を入れて粉に仕、柹搗といふ團子に仕り上るやうにと御好にて、上げたりけるに、下々のもの可レ捨事にあらず。其心ゆゑに喰物に事を欠く也と被レ仰。人々至極仕り奉レ感也と。又江戸筋違橋普請の時、上使有りて御菓子出でけるに少しねぐさき心あり。御菓子師才次を被レ爲レ召、御憤り甚敷、御直に杖にて被レ爲レ打處、筑前樣つと御立、成敗可レ仕と被二仰上一處、御手を振り給ひ、不レ入事と御意の内に、才次逃げ去る。御前恙なく立去り、當座の御叱に罷成と人々奉レ感。其晩より才次は御臺所へ罷

出、御用相務る也。とあり。又微妙公夜話録に、或年上海道より江戸へ御越の節、日坂にて所の名物とてわらび餅召上られけるに、御扶持人の菓子師共の仕るとは格別風味もよし。是を仕る者はいかなる者ぞと尋ねさせ給へば、七十歲許なる婆々がねり申由言上するに、夫を雇ひ參り候へと仰出され、即ち菓子道具入れたる長持の上に毛氈を敷き、是に載せて參るべき旨被二仰出一。其通にして參る處、肥前殿御通行に、婆々を長持に乘せて通りたり。何者にやと取々沙汰也。馬方共見知りあれば、日坂のわらび餅仕る婆々なりと申故、猶々不審す。然處に、一度もわらび餅不レ被二仰付一、江戸へ三日路許に成りて、右の婆々に銀子二十枚賜り、籠にて送らせ返されしと也。罷歸りける頃、道中にて以前の婆々こそ罷歸り候と、馬繼毎に樣子を尋ぬるに、大分の御かね被レ下たりと、道すがら語りけるゆゑ、肥前殿の御意にさへ入れば人に成るとて、其後茶屋はたごや物賣に至るまで、御馳走の心ざしをはげましけるとぞ。とあり。又藤田安勝筆記に云ふ。小松に御座被レ成頃、朝御膳以後每度小豆の餅被二召上一、御重梨子地蒔繪にて、其御重へ直に御箸御入被レ成召上らる。折々は津田玄蕃抔へ爲レ給やうにと御意にて、山崎虎之助・國澤庄三郎・杉江兵助など、玄蕃相詰候所へ持參し頂戴致させたり。右の御菓子給べ濟み、御重其外器物御料理人御膳所へ引き、御菓子の以後折々濃茶を被二召上一。とあり。

○今　町

元祿九年本町肝煎裁許附に、十間町・上今町・常福寺上ヶ地町。と並べ載せたり。同三年の火災記に、尾張町・上今町・下今町。とありて、今も上・下に分たれたり。此の町名は新町と同じく、新たに建てたる由ならんと三州志來因概覽にいへり。今按ずるに、今町は今市町の略稱ならんか。今市村は石浦庄七ヶ村の一村也。慶長十一年八月石浦七ヶ村氏子連判狀に、今市村平左衞門とあり。寛永八年の石浦山王社氏子地圖に、今市村跡とて西町の邊に記載し、明和二年慈光院上申書には、今市村は只今の近江町に有レ之處、退轉之由申傳。とあり。右傳說に據れば、其の村跡少し隔つといへども、其の村地にてあるなるべし。三州名跡誌に、今町は昔山崎村と云ふ在家ありし故に、山崎町ともいへりと。但